

# 平成27年 登熟期仕上げの水管理チェックポイント

- ・ 出穂の遅れやバラツキが見られ、穂揃い期が遅れる水田もあります。落水は穂かがみ期以降にしましょう。
- ・ 落水後に水田土壌が乾き過ぎると、腹白粒・乳白粒が増加します。落水後も走り水をして、土壌水分を保持しましょう。

## “仕上げの水管理” 三箇条

- ❶ 出穂が始まったら浅水管理  
(または間断かんがい/走り水)
- ❷ 地耐力確保の地固めが原則  
(土壌表面にわずかに足跡が付く固さ)
- ❸ 落水は穂かがみ期以降 (出穂後25日目以降)

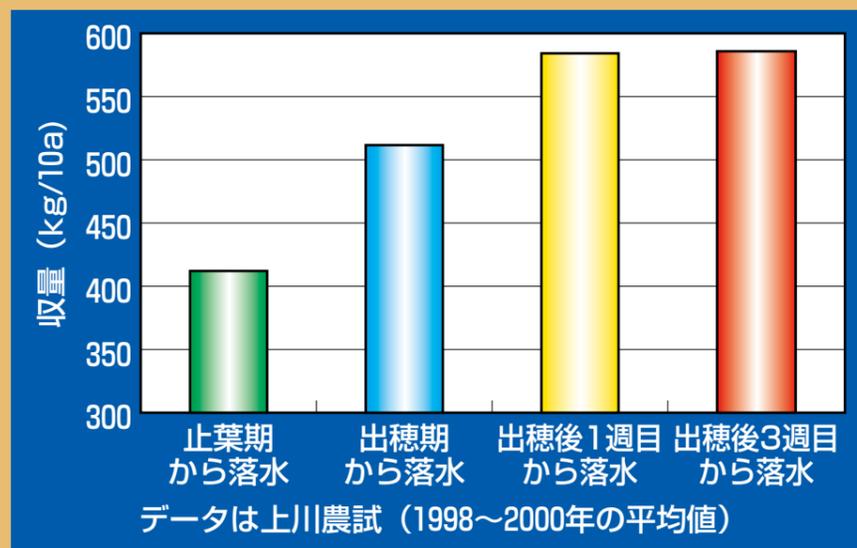
表 登熟期後半の水田土壌水分と土壌表面状態 (平成13年、中央農試・上川農試)

落水後登熟期間 の土壌水分	水田土壌表面等の状態	収量 への影響	産米品質 への影響
pF2.5以上	作土に深い大亀裂が生成、水稻根の切断が観察	×	×
pF2.4程度	作土に幅1cmくらいの亀裂多数、足跡つかない	▲	×
pF2.1~2.3	表面に小亀裂生成、わずかに足跡がつく	◎	◎
pF2.1以下	表面のみ乾燥、亀裂微、明瞭に足跡が残る	-	-

(注)◎: 好適、▲: 境界領域、×: 不適、-: 収穫機械走行に悪影響

## 水田土壌の乾き過ぎ、土壌表面の大亀裂防止

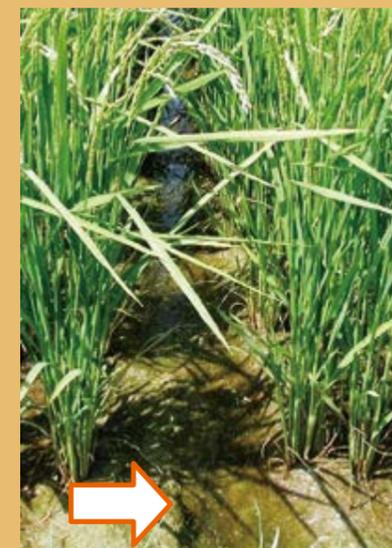
- ◆ 落水後の水田土壌の乾き過ぎや、土壌表面の大亀裂は収量の低下や腹白粒・乳白粒増加の原因になります。
- ◆ 適宜、走り水をして土壌水分を保持しましょう。



落水時期と収量の関係



腹白粒・乳白粒



溝切りと走り水



大亀裂